

## イタリア山村過疎集落の再生事例調査



工学部 4 年  
和田 雄佑  
イタリア  
2016 年 9 月 2 日～  
2016 年 9 月 26 日

### 渡航概要と内容

#### [渡航概要]

1980年代にイタリアで過疎集落の活性化を目的として生まれた”アルベルゴ・ディフーズ”という、ホテルの一形態について調査するべく渡航した。アルベルゴ・ディフーズは直訳すると「分散したホテル」。各種機能がおよそ一つの建物に集約されている通常のホテルに対して、アルベルゴ・ディフーズはまちに点在する複数の建築物から成り、それぞれに受付、食堂、店舗、寝室などの機能が与えられる。アルベルゴ・ディフーズ協会なるものが存在し、その協会の認定を受けたホテルが現在イタリア全土に86存在する。その中から2つのホテルを選び、トスカーナ州のセンプロニアーノ、リグーリア州のアプリカーレというまちで8日間ずつ調査を実施した。また、途中ピエモンテ州トリノに滞在し、トリノ工科大学の先生にイタリアにおける建築基準法についてお話を伺った。

#### [内容]

現地での調査の主な内容は、オーナーへのインタビュー、住民へのヒヤリング、および建築物の実測・図面作成。アルベルゴ・ディフーズはどのような過程を経て生まれるのか、それはまちにどのような影響を与えるのか、建築物の改修はどのように行われているのかなどを明らかにすることを目標とした。またこのホテルの形態は現在日本の北海道でも導入が検討されており、2つのまちと日本のまちにおけるその成り立ち・構造・住民などの違いにも着目しながら調査を行った。

### 渡航を通じて感じたこと

[言語に頼りすぎない]

人と人とのコミュニケーションにおいて言語が大きな役割を果たすのは言うまでもない。しかしコミュニケーションとは単なる言葉のキャッチボールではなく意思の疎通のことであり、そこで必要なのは言語以上にお互いの信頼関係である。考えてみれば当たり前のことなのだが、今回の渡航を通してそのことを新しい発見のように感じた。調査を行うにあたって、8日間イタリア人の男性(Luciano さん)が一人で営む農家に滞在させていただいた。滞在も終わりに差しかかったある日彼の兄弟家族との食事に招待された。彼らは私を温かく受け入れ、矢継ぎ早に話しかけてくれる。イタリア語が相変わらずほとんど理解できずに困っていると、Luciano さんがすかさずイタリア語をイタリア語に通訳してくれる。わかるわけないやんと内心つつこむのだが、なぜだか何となく言っていることがわかる。それは、数日間の共同生活の中でのコミュニケーションの蓄積やそれによって築かれた信頼関係によるものだと思う。

「もう少し〇〇語が話せればあの人と良い関係になれたのに。」このような思いをしたことがこれまでに何度かある。言語のせいで関係を築けなかったと。人と人が心を通わせるのに言語はそれほど関係ないのかもしれない。実際今回の滞在ではイタリア語がほとんど話せない状態からスタートし、言語が使えない中でも Luciano さんをはじめ多くの人と良い関係を築くことができた。無論いろいろな言語を話せるに越したことはないが、言語ができないからといって臆病になる必要もなくまた言語ができるからといって慢心してもいけない。外国語を使うときに限らず日本においても、言語よりもっと深いところでの意思の疎通というものを心がけたい。コミュニケーションのあり方について考えさせてくれた。

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

### [調査・研究]

特にセンプロニアードでは充実した調査を行うことができた。また調査を通してを研究アルベルゴ・ディフーズされている先生ならびに現地の住民の方々と良い関係を築くことができた。引き続き連絡を取りながら研究の質を向上させていきたい。上述の通りアルベルゴ・ディフーズは現在日本の北海道でも導入が検討されている。今後は北海道の方々とともに連絡を取り、今回の調査によって得られた知見を共有するとともに自身のアルベルゴ・ディフーズに対する理解もさらに深めたい。一連の活動の成果物として卒業論文を執筆する。

### [調査地での出会い]

調査を目的とした旅では、旅を目的とした旅では出会わないような人と出会うことになる。今回の渡航では実に様々な人に出会った。また一つのところに滞在する時間も長いためそこで築かれる関係も密なものになる。およそ1か月、本当にたくさんの優しさに触れ、たくさんの恩を受けた。彼らに再会するときには立派な人間になって

いたい、恩返しをしたい。そういった気持ちはこれから生きていくうえで非常に大きなモチベーションになる。

## 主な奨学金の使途

- \*渡航費
- \*移動費
- \*宿泊費
- \*食費
- \*調査費
- \*その他雑費 など



アンブリカーレ



センプロニアーノ



客室の一例